



2015年度からスタートした、IBM 健保組合のデータヘルス計画。
1年目に実施した各健康課題への対策・事業などの
取り組みとその結果についてご報告します。



レセプトから見た医療費および疾病傾向 — 「疾病白書 2015」より

一部増加傾向にある悪性新生物（主にがん）など、IBM 健保組合加入者の医療費や疾病がどのような傾向にあるのか、レセプトの集計等によるデータを毎年「疾病白書」などにまとめています。

その結果を分析して保健事業に活かしていくとともに、

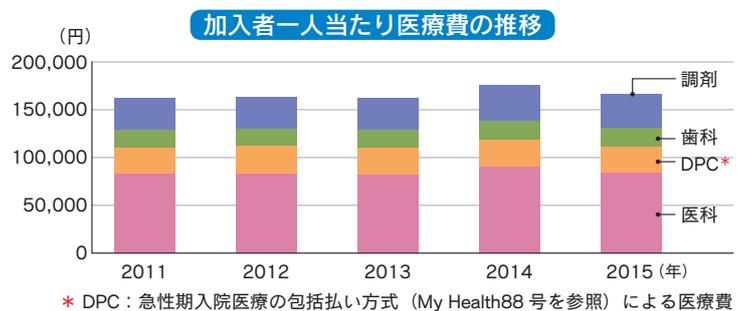
みなさまの日常生活での予防行動や健（検）診受診等に役立てていただければと考えています。

今後もさまざまなデータをもとに、みなさまにより良いプログラムを提供するよう努めてまいります。

Report 1

医療費の推移

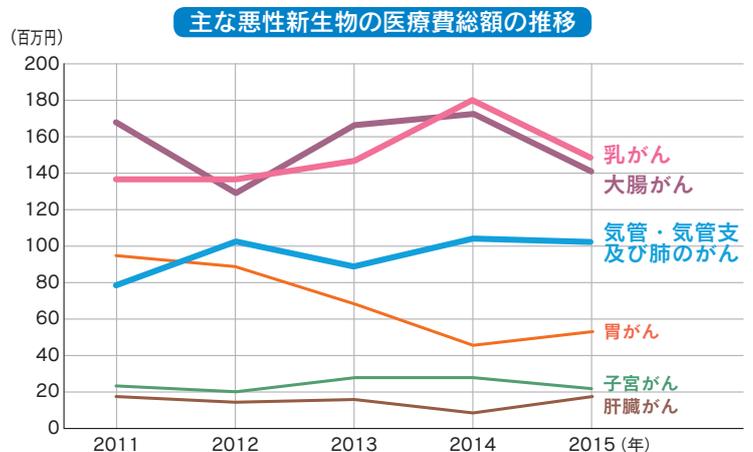
医療費総額では、伸びはやや鈍化しているようですが、加入者一人当たりで見ると、ここ数年の傾向としては増加を続けています。特に、医科や調剤の伸びが大きくなっています。調剤費の伸びをできるだけ抑えるためにも、処方薬についてはレセネット加盟薬局やジェネリック医薬品を利用するなど、ご協力をお願いします。



Report 2

悪性新生物の医療費傾向

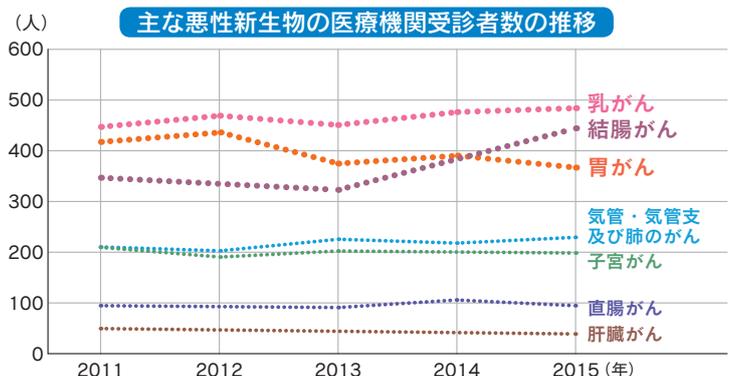
医療費総額を疾病別に見ると、悪性新生物の占める割合が最も高いという従来の傾向に変わりありません。さらにこの中身を見ると、増加傾向にあるのが乳がん、肺がん（気管支を含む）、それに結腸がん。結腸がんと直腸がんを合わせた大腸がんでは、乳がんに次いで医療費総額の大きい疾病となっています。これらの中では特に乳がんが著しい増加を示しています。一方、胃がんについては減少傾向となっていますが、ピロリ菌感染等の胃がんハイリスクの方は、継続的な胃検診のフォローを受けていただくようお願いします。



Report 3

悪性新生物の受診者数

受診者数では、乳がん、結腸がん、胃がんが多くなっています。特に乳がん患者は年々増加を続けているという状況ですので、乳がん検診の対象となっている方は必ず検診を受けるようにしましょう。また、結腸がんの患者については、この2年間で急激に増えています。直腸がんと合わせた大腸がんでは、全がん中最も多くなっていますので、好発年齢である50歳以上の方は、定期的な検診受診を心がけましょう。



★すやかサポート Plus では、これまでの「健康白書」「疾病白書」をはじめデータヘルスの各種資料をご覧いただけます。こちらもぜひ、ご確認ください。